

●教員志望だったのに… 意に反して週刊誌編集者 42 年

1. 女性自身なんて聞いたこともなかった！

- ① 家計を助けるために光文社の臨時募集に応募
- ② 学校など行かずに、明日から出勤せよ。卒業は諦めよ（しかし翌年卒業）
- ③ 単行本編集部、と懇願したのに女性週刊誌とは…
- ④ 労働組合問題などの企画を出して笑い者にされるだけだった
- ⑤ まったく使い者にならず 5 年間で上司が 10 人変わった（社内記録）

2. 命の恩人？ 10 人めのデスクが開眼させてくれた

- ① 編集部内 10 班のうち最後のデスクは芸能＆スポーツ記事担当だった
- ② 歌や野球が大好きな私は、彼らの名前などに詳しくなかった
- ③ 初の芸能記事スクープは「桑野みゆきの夫が語る離婚の真相」だった
- ④ 不思議なことが起き始めた。デスク曰く「私の OK は不要。自分の判断で記事を作れ」

3. 「知恵とフットワーク」をモットーに自分を追い込む！

- ① デスク昇格で改めて考えた。「良い結果」を出すためのキーワードは何か。
たどり着いたのは知恵とフットワークをフル回転させること。
これに徹して「良い結果」が得られないときは、自分の努力不足であること
- ② 「良い結果」が得られた例をひとつ。
神宮球場だった。終生の協力者、大杉はじめ氏＆北原謙二氏（歌手）との出会い。
ガラ空きの内野スタンドでヤクルトを応援。二人は私の 5～6 列前で観戦していた。
「隣に座っていいですか」と勝手に合流した。私は名刺を差し出し、「試合後、一杯やりませんか？」と恐る恐る誘ってみた。OK だった。ただし、彼等の「行きつけの店で」となったのである。
この夜の出会いが、それ以降の私の編集者生活に計り知れない好結果をもたらした。
大杉氏は、あの舟木一夫の元マネージャーだったのである
- ③ 芸能プロダクション、レコード会社、テレビ局など軒並み歩き回る
- ④ デスク、副編集長としてスタッフを統括する。ある記者が「吉永小百合結婚」をスクープ

4. 男性週刊誌「週刊宝石」の創刊に参加 <昭和 56 年（1981 年）>

- ① 例の 10 人めのデスクと私に男性週刊誌創刊の社命が下った
- ② 週刊ポストの創刊以来 12 年、たとえ最後発でも挑戦せよ
- ③ 例の 10 人めのデスクが編集長に、私が代理でスタート！
- ④ 硬軟取りまぜた企画で先輩各誌を次々に追い抜く
- ⑤ 創刊から 5 年、週刊ポストに次ぐ 2 位となり、再び新しい社命が！

5. 写真週刊誌「フラッシュ」の創刊に参加 <昭和 61 年（1986 年）>

- ① またも最後発。フォーカス、フライデー、エンマ、タッチに次いで・・・
- ② 写真誌バッシングの嵐の中で、女性読者が逃げ去った
- ③ 密かに編集方針を変更、こわもてイメージからの脱却をはかり、光明が！
- ④ 業績黒字安定で編集長昇格。例の上司も取締役役に
- ⑤ 他誌の編集長との兼務、新雑誌の開発研究など多忙を極める毎日
- ⑥ 「フラッシュ」編集長を後輩に託し、再び「週刊宝石」に！
- ⑦ 取締役役に昇格。女性自身、週刊宝石、フラッシュの発行責任者となる

6. 週刊誌編集者のエピソードあれこれ

- ① 造語やブームを仕掛ける楽しさ
 - ・「熟女」という造語を考えたいきさつ
 - ・「女子アナブーム」の仕掛人と言われて
 - ・ B G と O L
- ② O N との思い出
 - ・ 長嶋さんに「読書」を質問した時の仰天コメント
 - ・ 王さんを怒らせ、差しで話し合った 1 時間
- ③ 編集者の特権？ 著名芸能人との交遊
 - ・ 五十嵐淳子さんとエーゲ海船旅 10 日間
 - ・ 五月みどりさんのロサンゼルス家で寝泊まり
 - ・ 宮沢りえさんとハワイ撮影旅行 1 週間
 - ・ 五木ひろしさんから頂いたお宝腕時計
 - ・ 長嶺ヤス子さん、家賃払えずフラメンコの衣装預かる
 - ・ 歌手ポール・アンカと柿のタネ
 - ・ カーター元大統領と「30 秒会話」&握手